

【台風 10 号に対する米・大豆の技術対策について】

〔水稻〕

◎発生様相

- ・水稻の生育状況によって被害の様相は異なるが、茎葉の折損や裂傷、粃ずれ、脱粒、倒伏やと潮風やフェーン風などによる強制脱水などによる生理的障害が発生する。
- ・被害を最も受けやすい時期は出穂後 1 週間前後で、穂に対する被害が最も大きく、粃ずれ、登熟不良、千粒重の低下などをもたらす。

●対 策

- ・今年産は、降雨が少なく圃場によっては深水湛水は厳しい環境にあるが、深水湛水は稲体の激しい動揺を防ぎ、機械的損傷も軽減できる。
- ・特に、幼穂形成期以降は、葉の損傷で、根の老化も急速に進むので、土壌中に酸素を補給し、根の活力維持をはかるため間断灌水を励行する。
- ・被害を受けたものは、病虫害の発生が多くなるので発生状況を確認し、早期防除に努める。

〔大豆〕

◎発生様相

- ・開花期以降～登熟期にかけて被害を受ける。
- ・被害は茎の折損、葉の裂傷、落葉、倒伏などの発生で、光合成能力は低下し、生育障害を引き起こして減収する。
- ・冠水による被害は、半日（12 時間）の場合、若莢期（開花期後 5 日）で 5 % 程度、成莢期（開花期後 30 日）で 15 % 程度の減収とされる。

●対 策

- ・冠水を受けた場合は、直ちに排水を行う。
- ・台風通過後は紫斑病の発生が多いので、防除を徹底する。